

2月20日、私の友人で中国人の権派弁護士、唐吉田氏(55)の長女の唐正琪さん(27)が留学先の日本で亡くなつた。

3年前の4月末、「風邪の症状が続いていた娘と3、4日連絡が取れない」と中国にいる唐氏から連絡があり、私は正琪さんの住む東京のマンションに見に行つた。彼女は部屋の中で意識を朦朧とさせながら倒れていた。新型コロナウイルスの影響で病院はどこも満室で、救急車はなかなか到着しない。不安な中、付近の警察署から駆けつけた警察官が早朝まで付き添つてくれたことを、今も昨日のことのように覚えている。

**父が瀕死の娘に会えぬ非道**

唐氏は、強制的な立ち退きやメラミン混入粉ミルクの被害者、信教の自由を訴える人々を支援し、司法の独立や政治改革を訴えてきた。弁護士協会役員をオーブンに候補者を募つて選ぶべきだと主張し、2008年には北京市司法局に弁護士の資格を剥奪された後も、權

が続いていた娘と3、4日連絡が取れない」と中国にいる唐氏から連絡があり、私は正琪さんの住む東京のマンションに見に行つた。彼女は部屋の中で意識を朦朧とさせながら倒れていた。新型コロナウイルスの影響で病院はどこも満室で、救急車はなかなか到着しない。不安な中、付近の警察署から駆けつけた警察官が早朝まで付き添つてくれたことを、今も昨日のことのように覚えている。

**父が瀕死の娘に会えぬ非道**

唐氏は、強制的な立ち退きやメラミン混入粉ミルクの被害者、信教の自由を訴える人々を支援し、司法の独立や政治改革を訴えてきた。弁護士協会役員をオーブンに候補者を募つて選ぶべきだと主張し、2008年には北京市司法局に弁護士の資格を剥奪された後も、權

が続いていた娘と3、4日連絡が取れない」と中国にいる唐氏から連絡があり、私は正琪さんの住む東京のマンションに見に行つた。彼女は部屋の中で意識を朦朧とさせながら倒れていた。新型コロナウイルスの影響で病院はどこも満室で、救急車はなかなか到着しない。不安な中、付近の警察署から駆けつけた警察官が早朝まで付き添つてくれたことを、今も昨日のことのように覚えている。

**父が瀕死の娘に会えぬ非道**

唐氏は、強制的な立ち退きやメラミン混入粉ミルクの被害者、信教の自由を訴える人々を支援し、司法の独立や政治改革を訴えてきた。弁護士協会役員をオーブンに候補者を募つて選ぶべきだと主張し、2008年には北京市司法局に弁護士の資格を剥奪された後も、權

力の乱用を防ぐための制度構築を提言するなど地道な努力を続けていたが、ここ10年ほどは厳しい監視下に置かれ、目立った活動はしていなかった。12年以降は海外に渡航することもできなくなった。

正琪さんは新型コロナではなく結核を患っていた。大学受験の追い込みの時期、親に重い経済的負担をかけたくない、週末はファ

ストフード店でアルバイトもしな

がらの生活で心身とも厳しい状況にあったのだろう。体調が悪ければ相談してくれればよかったのに

新型コロナの可能性を恐れ、連絡

を控えていたのかもしれない。

結核は免疫力や体力が低下した

時に発病する。結核菌が彼女の脳幹部にまで入り込み、髄膜炎を発症したため緊急手術が必要になつた。唐氏が日本に来ることができないため、私が代わりに手術承諾の書類に署名した。正琪さんは、一緒に救急車に乗つた時には会話

ができるいたし、その翌日には、「おばさん、朝まで付き添わせて眠れなかつたでしよう。ゆっくり休んで」とSNSの録音でメッセージをくれた。数日後、彼女は意識不明に陥つた。

**政権維持が「國家の安全」か**

唐氏は、出国許可を求め、中国政府の関係部門に陳情して回つた。しかし、「あなたが出国すれば国家の安全に危害を及ぼす可能性がある」との理由で、願いは叶えられ

## 唐正琪さんの葬儀を終えて思う



東京大学教授  
阿古 智子

し、深刻な人権侵害を続けること

に、改めて憤りを覚えた。それと

同時に中国の脅威に毅然と向き合

いながらも、具体的な問題への対

応は政府と民間レベルで慎重かつ

細やかに行うべきだと感じた。

私は正琪さんが日本で医療や介

護を受けるために、公的な補助の

申請やビザの更新を手伝い、彼女

の家族や支援者と頻繁にやりとり

する中で、日本で暮らす外国人支

援のあり方や異文化摩擦の解消に

について考えた。中国の大半の病院

は、日本のように完全看護ではな

く、家族が病院に滞在して患者の

世話をする。中国の家族は言葉の

壁がある中で意識不明の患者本人

に治療の意思を確認することもで

きず、医師や看護師との間のコミ

ニケーションに苦労し、双方の

葬儀を終え、この3年弱の月日

が私の脳裏に走馬灯のよう駆け

巡つた。父親が瀕死の娘に会うこ

とで失われてしまう国家の安全と

何が何を意味するのか、なぜか

唐氏が日本に来ることができ

ないため、私が代わりに手術承諾

の書類に署名した。正琪さんは、

一緒に救急車に乗つた時には会話

ができるいたし、その翌日には、「おばさん、朝まで付き添わせて

眠れなかつたでしよう。ゆっくり

休んで」とSNSの録音でメッセージをくれた。数日後、彼女は意識不明に陥つた。

**政権維持が「國家の安全」か**

唐氏は、出国許可を求め、中国政府の関係部門に陳情して回つた。しかし、「あなたが出国すれば国家の安全に危害を及ぼす可能性がある」との理由で、願いは叶えられ

し、深刻な人権侵害を続けること

に、改めて憤りを覚えた。それと

同時に中国の脅威に毅然と向き合

いながらも、具体的な問題への対

応は政府と民間レベルで慎重かつ

細やかに行うべきだと感じた。

私は正琪さんが日本で医療や介

護を受けるために、公的な補助の

申請やビザの更新を手伝い、彼女

の家族や支援者と頻繁にやりとり

する中で、日本で暮らす外国人支

援のあり方や異文化摩擦の解消に

について考えた。中国の大半の病院

は、日本のように完全看護ではな

く、家族が病院に滞在して患者の

世話をする。中国の家族は言葉の

壁がある中で意識不明の患者本人

に治療の意思を確認することもで

きず、医師や看護師との間のコミ

ニケーションに苦労し、双方の

葬儀を終え、この3年弱の月日

が私の脳裏に走馬灯のよう駆け

巡つた。父親が瀕死の娘に会うこ

とで失われてしまう国家の安全と

何が何を意味するのか、なぜか

唐氏が日本に来ることができ

ないため、私が代わりに手術承諾

の書類に署名した。正琪さんは、

一緒に救急車に乗つた時には会話

ができるいたし、その翌日には、「おばさん、朝まで付き添わせて

眠れなかつたでしよう。ゆっくり

休んで」とSNSの録音でメッセージをくれた。数日後、彼女は意識不明に陥つた。

**政権維持が「國家の安全」か**

唐氏は、出国許可を求め、中国政府の関係部門に陳情して回つた。しかし、「あなたが出国すれば国家の安全に危害を及ぼす可能性がある」との理由で、願いは叶えられ

し、深刻な人権侵害を続けること

に、改めて憤りを覚えた。それと

同時に中国の脅威に毅然と向き合

いながらも、具体的な問題への対

応は政府と民間レベルで慎重かつ

細やかに行うべきだと感じた。

私は正琪さんが日本で医療や介

護を受けるために、公的な補助の

申請やビザの更新を手伝い、彼女

の家族や支援者と頻繁にやりとり

する中で、日本で暮らす外国人支

援のあり方や異文化摩擦の解消に

について考えた。中国の大半の病院

は、日本のように完全看護ではな

く、家族が病院に滞在して患者の

世話をする。中国の家族は言葉の

壁がある中で意識不明の患者本人

に治療の意思を確認することもで

きず、医師や看護師との間のコミ

ニケーションに苦労し、双方の

葬儀を終え、この3年弱の月日

が私の脳裏に走馬灯のよう駆け

巡つた。父親が瀕死の娘に会うこ

とで失われてしまう国家の安全と

何が何を意味するのか、なぜか

唐氏が日本に来ることができ

ないため、私が代わりに手術承諾

の書類に署名した。正琪さんは、

一緒に救急車に乗つた時には会話

ができるいたし、その翌日には、「おばさん、朝まで付き添わせて

眠れなかつたでしよう。ゆっくり

休んで」とSNSの録音でメッセージをくれた。数日後、彼女は意識不明に陥つた。

**政権維持が「國家の安全」か**

唐氏は、出国許可を求め、中国政府の関係部門に陳情して回つた。しかし、「あなたが出国すれば国家の安全に危害を及ぼす可能性がある」との理由で、願いは叶えられ

し、深刻な人権侵害を続けること

に、改めて憤りを覚えた。それと

同時に中国の脅威に毅然と向き合

いながらも、具体的な問題への対

応は政府と民間レベルで慎重かつ

細やかに行うべきだと感じた。

私は正琪さんが日本で医療や介

護を受けるために、公的な補助の

申請やビザの更新を手伝い、彼女

の家族や支援者と頻繁にやりとり

する中で、日本で暮らす外国人支

援のあり方や異文化摩擦の解消に

について考えた。中国の大半の病院

は、日本のように完全看護ではな

く、家族が病院に滞在して患者の

世話をする。中国の家族は言葉の

壁がある中で意識不明の患者本人

に治療の意思を確認することもで

きず、医師や看護師との間のコミ

ニケーションに苦労し、双方の

葬儀を終え、この3年弱の月日

が私の脳裏に走馬灯のよう駆け

巡つた。父親が瀕死の娘に会うこ

とで失われてしまう国家の安全と

何が何を意味するのか、なぜか

唐氏が日本に来ることができ

ないため、私が代わりに手術承諾

の書類に署名した。正琪さんは、

一緒に救急車に乗つた時には会話

ができるいたし、その翌日には、「おばさん、朝まで付き添わせて

眠れなかつたでしよう。ゆっくり

休んで」とSNSの録音でメッセージをくれた。数日後、彼女は意識不明に陥つた。

**政権維持が「國家の安全」か**

唐氏は、出国許可を求め、中国政府の関係部門に陳情して回つた。しかし、「あなたが出国すれば国家の安全に危害を及ぼす可能性がある」との理由で、願いは叶えられ

し、深刻な人権侵害を続けること

に、改めて憤りを覚えた。それと

同時に中国の脅威に毅然と向き合

いながらも、具体的な問題への対

応は政府と民間レベルで慎重かつ

細やかに行うべきだと感じた。

私は正琪さんが日本で医療や介

護を受けるために、公的な補助の

申請やビザの更新を手伝い、彼女

の家族や支援者と頻繁にやりとり

する中で、日本で暮らす外国人支

援のあり方や異文化摩擦の解消に

について考えた。中国の大半の病院

は、日本のように完全看護ではな

く、家族が病院に滞在して患者の

世話をする。中国の家族は言葉の